

民児協 いばらき



■左上：上田市との交流（かすみがうら市）
■左下：市内間交流（古河市内5地区）

■右上：県内間交流（常陸太田市金砂郷地区と鹿嶋市はまなす地区）
■右下：前橋市との交流（水戸市東部地区）

contents

■ 新年の御挨拶（会長）	2
■ 新年の御挨拶（県知事）	2
■ 民生委員 OB 訪問	3
■ 全国民生委員児童委員大会報告	4
■ 第 85 回関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会参加報告	5
■ 訪問民児協（行方市北浦地区民児協）	6
■ 主任児童委員活動報告（鹿行地区）	7
■ 第44 回茨城県民生委員児童委員大会報告	8
■ 事務局だより	8
■ 編集後記	8

96

2026(R8).1.15

新年の御挨拶

茨城県民児協会長 倉持 嘉男



新年あけましておめでとうございます。

今日急速に進行する少子高齢化や、ひとり暮らし世帯の増加、家族意識の変容などが進み、地域社会では人びとのつながりが希薄化しており、地域住民は、孤立や孤独、介護や子育て等への不安など、多様な課題を抱えています。

私たち民生委員・児童委員におきましては、これらの課題等への対応に向け、孤独・孤立対策や生活困窮者自立支援をはじめ、福祉・保健・医療・教育等、幅広い分野の行政や関係機関との連携を図り、私たちの強みを生かし、地域の包括的な支援体制を構築していくことが求められます。

一方、民児協の組織活動を考えますと、昨年12月に新たに就任された委員ができるだけ長く活動を継続できる環境づくりが急務です。特に、定年を過ぎても働き続けることが一般的となるなか、企業

等に就業しながら委員活動を継続できる環境整備が重要となってまいります。

また、民生委員・児童委員の負担増加が言われていますが、関係機関との適切な役割分担を確認する等、本来の役割に照らした活動ができるよう見直しに常に取り組みますとともに、委員活動をサポートする民児協の機能強化を図ることで、委員の負担軽減に取り組むことが必要です。

そして民児協の組織として活動や役割を整理し、強みを生かしていくことで、将来に向けて持続可能な体制をつくり、「地域共生社会」の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、今年は、茨城県民生委員制度100周年の記念すべき年でもあります。皆様方におかれましては、地域の人々から喜びの声や笑顔で感謝され頼られていることを意識し、行政や福祉機関との「つなぎ役」として、日頃の活動に努めていただくことをお願いいたしまして、新年のご挨拶といたします。

新年の御挨拶

茨城県知事 大井川 和彦



新年あけましておめでとうございます。

民生委員・児童委員の皆様には、日頃から地域住民の方々に対する相談や援助活動

を通して、社会福祉の向上に多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、昨年12月には一斉改選が行われたところであり、再任された皆様、新たに委嘱された皆様には、本県の地域福祉の推進役として、一層のご尽力を賜りますよう、御願い申し上げます。

時代は今、加速度的に進む人口減少をはじめ、国際秩序の変容や気候変動による影響の拡大、人工知能の驚異的な進化などにより、大きな変化の只中にあります。

このため、私は就任以来、「挑戦」「スピード感」「選択と集中」の3つの基本姿勢を徹底し、経済の活性化や安心安全な生活基盤の確保などに全力で取り組んできました。

その結果、2022年度の県民経済計算の推計結果において、本県の1人当たり県民所得が3年連続で全国第3位となったほか、人口の社会増加数は近年全国上位で推移するなど、本県の潜在能力開花に繋がる変化が着実に芽生えてきております。

本年は、現在、策定を進めている新たな総合計画に基づき「新しい豊かさ」「新しい安心安全」「新しい人財育成」「新しい夢・希望」のチャレンジをさらに進化させるとともに、多様な人材が活躍できる社会の実現などに力を入れ、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

民生委員・児童委員の皆様におかれましては、地域住民の方々への様々な相談・援助活動などを通じて、誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに、なお一層のご協力、ご尽力を賜りますよう御願いいたします。

結びに、茨城県民生委員児童委員協議会のますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍を心より御祈り申し上げます。

一茨城県民生委員制度 100 周年記念事業— 民生委員 OB 訪問

■はじめに

令和 8 年 4 月に 100 周年を迎える茨城県民児協は、多くの委員と関係者の皆様の活動によって成り立っています。そこで、前号（95 号）に引き続き、過去 100 年の歩みの中で長年にわたり貢献してこられた民生委員 OB の皆様の活動をご紹介しますとともに、今後に向けた提言をいただきお伝えして参ります。



みくに しょうじ
三國 省 治 様

高萩市在住
委員歴 38 年
(昭和 59 年～令和 4 年)
現役時の役職：
高萩市民児協 会長 3 期 9 年
茨城県民児協 評議員、理事
計 4 期 12 年

■OB からのお話し

私が民生委員児童委員になったきっかけは、市議会議員より「前任者の身体の調子が思わしくないで、民生委員を引き受けてもらえないか」と話があったことです。

家族会議をして、祖父の代より地域の方々にお世話になり、恩返しが出来ればと思い 35 歳でお引き受けしました。(民生委員に就任してから子供が生まれ、当時子どもさんが出来るような若い方が民生委員になってくれたと話題になったそうです。)

私は、商いを親より継いでいましたので担当地区の「家」や「家族構成」を概ね知っていたことも、活動に役立てることができました。

そして、民生委員活動で特に印象に残っている思い出を紹介いたします。まず、東日本大震災時に各委員が安否確認をはじめ、物資配布等で、声を掛け合い行

動して下さった事です。また、研修旅行中に担当地区の悩み、問題を民生委員どおしで、自分の事のように心配し話合った事も心に残っていることの一つです。

高萩市民児協会長となつてからは、自己研鑽し立ち振る舞いや言葉使いを特に気を付け、また委員の健康を一番に気遣いました。そして民生委員として 38 年間活動することができました。

100 周年を迎えるにあたり、現在活動なさっている皆様への私からの提言といたしましては、民生委員・児童委員として行動する時は、民生委員徽章、ネームプレートを必ず付ける、そして一ヶ月に一回は担当地区を巡回し、まめに歩き、友愛訪問をすることです。県民児協の皆様の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。



■OB インタビューを終えて

インタビューする内容をすべて用意してこれだったので、スムーズにインタビューすることが出来ました。

民児協活動 38 年間で各会議等欠席は 3 回だけ、三國さんの人柄が覗えます。平成 12 年 6 月には、初めて小学校と民児協の意見交換会を開催されたそうです。バイタリティー、リーダーシップが身体全体から伺えます。8 月初旬の猛暑でしたが、清々しい気分になりました。

インタビューアー

茨城県民生委員制度 100 周年記念事業
実行委員会委員 根本 貞一



全国民生委員児童委員大会報告

茨城県民児協 理事 渡邊 恵一

1 はじめに

北の大地北海道で、令和7年9月4日・5日に全国の民生委員・児童委員4200余名の参加により、第94回全国民生委員児童委員大会が開催されました。(本県は29名が参加)

オープニングでは、アイヌ文化伝承保存会による歌と舞踊、そして、天神ソーラン踊り保存会による舞踊が披露されて、北海道の歴史と文化及び道民の躍動に感銘を受けました。

2 大会の趣旨

現在、社会や経済の構造が大きく変化する中で、さまざまな福祉課題に対応して地域社会を維持していくためには、多分野連携のもと地域共生社会の実現を図らなければなりません。

本大会では、今後の民生委員制度と活動の一層の充実と強化をめざして研究協議を行いました。

最初に、全国民児連会長の得能金市氏より式辞がありました。続いて、各関係団体の挨拶と功労者の表彰、及び大会宣言の採択が行われました。



3 特別講義

フリーライターの渡辺一史氏の講演がありました。内容は、一見マイナスにみえる対立や葛藤等は、対等な関係を築くための必要なプロセスであり、信頼できる関係の基礎となります。

人生は他人を支えていることによって、実は自分が支えられていることが多々あって、私達の人生は人間関係の集積であるというお話がありました。

4 活動交流集会・シンポジウムの報告

6テーマごとに分かれ、全国各地の活動事例を紹介しながら、活動に関わる課題を明確にし、ノウハウを学び合うとともに、参加者同士が交流することを目的として行いました。

●テーマ『高齢者・障害者の為の地域づくり』

茅ヶ崎市では、高齢者の実態調査を民生委員が3年に1度実施。一人の委員が100人を調査して、それを基に見守りマップを作成し、要支援者のランク付けを実施している。行政・自治会との情報共有の効果がでており、今後の活動の参考にしたいと思います。(羽生理事)

●テーマ『子育て、子育てを応援する地域づくり』

①学校の空き教室を利用したコミュニティルーム「ほっとカフェ」活動、②子ども関係所管の市行政3課と民児委員との4者協議を通した子どもへの包括支援体制構築、③民生委員の活動を知ってもらうための作文コンテスト実施といった3地域からの発表がありました。改めて自分の日々の活動のあり方や地域への展開の仕方を見直す契機となりました。(三浦理事)

●テーマ『生活困窮者への支援と地域共生社会の実現』

生活困窮者の把握に民生委員として具体的に対応している。地域共生社会を創り上げるためには、自治会の区長も民生委員と同じ考え方で対応する必要があると考えます。さらに、行政も同様な考え方で取り組んでいただきたいと思います。そうなることを、心より願っています。(黒田副会長)

●テーマ『民生委員活動の推進及び民児協機能強化』

酒田市では、全地区の自治会長に民生委員制度のチラシを配布し、地域社会全体の理解を深めるとともに、働きながら活動する委員のために市長名の協力依頼文を就業先に送付しています。また、行政や企業に対して民生委員・児童委員休暇制度の創設を働きかけているそうです。委員が活動しやすい環境づくりの参考にさせていただきます。(羽成理事)

●テーマ『災害に備える民生委員及び民児協の取り組み』

福島県富岡町の会長が、東日本大震災を被災した立場での体験に基づく報告をしました。防災組織の構築と他組織との連携の大切さが実感できました。(菊地副会長)



●テーマ『地域における孤独・孤立に寄りそうセーフティネット』

この夏に全国では、孤独死をされた方が数多くいました。行政中心に関係機関でワンチームとなり、セーフティネットを構築する緊急性があります。私の住む結城市では、国が指導する生活支援体制整備事業を推進しており、8地域で人と人とのつながりと課題を解決する市民レベルの活動を進めています。一般市民による児童の見守り、自治会長と班長による高齢者の見守りを実施して効果を上げています。(渡邊理事)

5 まとめ

エンディングでは札幌国際高校吹奏楽部のダンプレスタイル(ダンスとプレイ)による踊りと演奏がありました。若人達の演技は北海道の蒼い空のように澄み渡り広い大地のように奥深いものがあり、私達民生委員のこれからの活動を応援してくれているかのようで、大変感動致しました。

最後に、本大会で人と人とのつながりの大切さを強く再認識致しました。民生委員一人一人の小さな活動を、北海道札幌市から全国に向けて発信して活動の輪を広げたいと考えます。

基本理念『支え合う 住みよい社会 地域から』の実践に向けて

◆◆◆北の大地北海道より 希望と感謝を込めて◆◆◆

第85回 関東ブロック民生委員児童委員 活動研究協議会 参加報告

茨城県民児協 理事 羽成 利広

令和7年7月10日、11日の2日間、埼玉県熊谷市で開催された当協議会に参加しました。関東11都県と8政令市から計637名が参加し、茨城県からは倉持会長をはじめとする10名が出席しました。複雑化する地域課題への対応に向けた今後の活動のあり方について認識を共有し、多くの学びと気づきを得ることができました。

第1日目：熊谷市ならではの式典と感動的な記念講演

式典では、ラグビーが盛んな熊谷市ならではの演出が印象的でした。ラグビーの精神「One for all, all for one（ひとはみんなのために、みんなはひとりのために）」が、民生委員の活動理念と深く通じるというメッセージが込められていました。また、民生委員制度の創設に尽力した渋沢栄一翁のAIメッセージが披露され、参加者は歴史と現代が融合した斬新な演出に驚いていました。華やかな演出の一方で、民生委員の現状と課題も明確に示されました。高齢化による委員の欠員や担い手不足が深刻な問題として提起され、その解決策として、※重層的支援体制整備事業との連携、委員の負担軽減、ICT活用、そして住民への広報活動の重要性が強調されていました。

記念講演では、日本初の骨髄バンク設立者である大谷貴子氏が登壇しました。ご自身の壮絶な病気との闘い、そして骨髄バンク設立までの道のりが語られました。大谷氏の決して諦めない姿勢と勇気、そして「何もないところから社会を変えるには、まず行動することが大切だ」というメッセージは、参加者の心を深く揺さぶり、大きな感動を呼びました。参加者全員による松山女子高校合唱部との合唱「花咲く郷土」は、会場に一体感を生み出し、感動的なフィナーレを飾りました。



令和7年度（第85回）

関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会

第2日目：先進事例の共有と有意義な情報交換

分科会では、具体的な課題解決に向けた議論や先進的な取り組みが発表されました。本県からは、松本理事（常陸

太田市民児協会長）が、第4分科会で「民児協の組織力向上と支援のあり方」について発表しました。常陸太田市では、住民の相談窓口を生活支援コーディネーターに一本化するなどの効率化を図りながら、委員のなり手確保と活動継続のため、「楽しい」と感じられる民児協活動に心がけているという報告がありました。



第1分科会：働きながら活動できる環境づくりや、活動報告の事務処理負担軽減、ICTの活用などが課題として取り上げられました。また、災害に備えた民児協の取り組み事例が報告されました。

第2分科会：「こどもまんなか社会」の実現に向け、地域の子育てサロン、子ども食堂の運営・協力、学校との連携（児童と高齢者の交流会、登下校の見守り）などの活動事例が共有されました。

第3分科会：民生委員の最大の役割は「専門機関へのつなぎ役」であるとの認識が再確認され、ネットワーク構築の重要性が強調されていました。災害時を想定した実践的な取り組み事例の発表が行われました。

今後の展望と課題

委員活動を継続しやすい環境づくりに向けて、「なり手不足解消」と「委員の負担軽減」が急務となっています。5年後には、茨城県が当番県として本協議会を運営します。今回の経験と学びを活かし、来たるべき日に向けて今から準備を始める必要があります。

地域福祉の未来を担う民生委員児童委員の活動を、より持続可能で魅力的なものにするため、地区民児協の積極的な取り組みや創意工夫が求められています。

※本事業は、生活困窮者、高齢者、障がい者など多様な支援ニーズに対するため、相談支援・参加支援・地域づくりを一体的に推進するための国の事業であり、市町村が実施しています。

訪 問 民 児 協

行方市北浦地区民児協 会長 羽生 成一郎

○委 員 数 23名 (うち主任児童委員2名)

○行方市には3つの単位民児協があり、北浦地区民児協は旧北浦村エリアを担当している

今回は本紙の稲野邊編集委員(笠間市笠間地区民児協会長)が、北浦地区民児協の活動と特色ある取組を取材するため訪問しました。

1 訪問のねらい

民児協における毎月の定例会は、日頃の委員活動に関する調整をはじめ、関係機関からの連絡や必要な資料・情報の提供などが行われており、最も重要な委員活動の一つとなっています。委員のなり手不足の中、経験の浅い委員も増えつつあり、委員活動を支える場としての定例会を、いかに活性化していくかが課題になっていると感じております。

このような中、北浦地区民児協では、「活動強化方策」を作成するため、県民児協から示されたマニュアルにあった「気になるシート」を活用し、いち早く委員同士の意見交換を取り入れて、定例会の活性化を図っているとお聞きしました。

このため、今回、定例会を訪問し、どのように委員の意見・体験を引き出し、活動に活かしているのかを取材させていただくことにしました。

気になるシート

[氏名]	
・今気になっていることを自由に書いてください。一つでもかまいません。	
・匿名は保障で断絶です。	
・内容に照準すると見られる項目を下の欄から選んで項目の番号を書いてください。	
・当てはまると見られるなら、項目の番号は複数書いてもかまいません。	
・複数の番号を書いたときに、一審選では当てはまる項目の番号がある場合は、その番号を以て選んでください。	
題名	項目番号
内 容	
題名	項目番号
内 容	

①ひとり暮らし高齢者 ②認知症高齢者 ③身体障がい者(手帳所持者に限らない)
④加齢・障害・発達障がい等(手帳所持者に限らない) ⑤生活困窮者
⑥外傷性障害 ⑦被害者(関係者からの被害) ⑧虐待のある人 ⑨虐待の被害者
⑩児童虐待 ⑪不登校 ⑫ひとり親世帯 ⑬非行
⑭児童福祉施設からの避難者 ⑮ゴミ屋敷
⑯他の年金のみで生活(いわゆる65歳) ⑰近隣住民とトラブルが生じている世帯
⑱住まい不安定(立ち退き等) ⑲ひきこもり
⑳ヤングケアラー(18歳未満の介護者など) ㉑ダブルケア(育児と介護が同時進行)
㉒民児協の活動強化 ㉓なり手の確保 ㉔広報活動 ㉕その他

2 定例会の様子

私が訪問したのは、8月7日の定例会です。訪ねた行方市役所北浦支所の会場は、既にグループが5班に分かれて準備されていました。

北浦地区民児協では、令和4年度より「気になるシート」の活用を始めたとのこと。各委員に日頃活動で感じている課題や気になることを「シート」に自由に記載してもらい、その対応について各委員の経験や考えなど出し合っているそうです。今回使用した「シート」は5月の定例会で配布し、6月に提出してもらったものです。

「結論を求めることが目的ではありません。皆さんの考えを自由に出してもらうことが目的です。」との羽生会長の声かけで、意見交換が始まりました。案件は多種多様で、児童の話から高齢者・なり手の確保まであります。シートに記載した委員が状況を説明し、どのような

考えを持ち対応したのかが示され、それに対して他の委員の考えが付け加えられて、話し合いが進められていきます。形式にこだわらず、多くの委員が声を発し、あっという間に時間が経ち、最後に各班よりどのような話があったのか発表がありました。



羽生会長からは、「何でも自分で解決しようとは思わず、関係機関につなげるということを忘れないで活動していきましょう。そして、今回の事例の中から、さらに深掘したほうがよいと思われるものは、10月の定例会で再度検討していきます」とのお話があり、「気になるシート」を使っでの意見交換会は、終了となりました。

3 まとめ

今回の訪問により、少人数に分けての話し合いは、誰もが意見を出しやすいし、課題への対応は一つではないことも気付かされました。また、委員が抱えている問題を共有していくことの大切さを、改めて知ることとなりました。

そして、特筆すべきことは、今回の定例会には、市内の麻生地区と玉造地区から5人ずつの委員が参加し、意見交換に加わってありました。市内の中で、定例会のやり方を共有するようにしているとのことであり、交流会としても十分な役割を果たしていると思いました。



最後に、今年6月の会長・副会長研修において、北浦地区の柳町副会長から活動発表がありました。自分たちの取組みは、「活動強化方策」をつくるためにはじめたが、方策をつくらなくても活性化の目的は達成できているとの話がありました。今回、定例会を訪問し、やり方を見させていただき、正にそのとおりだと強く感じた次第です。

主任児童委員活動報告（鹿行地区）

鹿行地区常任委員長（神栖市主任児童委員） 安藤 美穂

今回は、鹿行地区常任委員長の安藤主任児童委員が、神栖市における主任児童委員活動を中心に報告いたします。

1 神栖市における主な活動 ～子供たちに安全な居場所を～

神栖市は旧神栖町と旧波崎町が合併した市です。人口はおよそ93,000人、児童は14,300人です。

子どもたちの居場所づくりが課題とされている昨今ですが、神栖市ではその対策として市内に7箇所の児童館を設置しています。市外の児童も受け入れており、各館独自のイベントなどを催し、幼児から高校生までの幅広い年齢の子供たちが利用しています。主任児童委員は運営委員として携わり、運営内容の把握と意見交換、視察などを行っています。

その他、委員として家庭相談員や里親会との懇談、要保護児童対策地域協議会や教育委員会主催のいじめ問題対策連絡協議会、また、市の子ども子育て支援の事業について、事業計画や見直しなどを協議する子ども子育て会議に参加しています。



2 私の主任児童委員活動 ～日常の活動から～

私は主任児童委員となって昨年（令和7年）12月で13年目です。現在は民間のスーパーで働きながら活動をしています。主任児童委員の活動は、会議や突発的な事案への対処等、日中に行われることがほとんどですので、そういったことを考慮し、現在は夕方から閉店までの時間帯で勤務をしています。勤務時間はちょうど近所の小中学校から下校した子どもたちが集まってくる時間帯にあたるので、何か気になる様子があれば学校に連絡したり、内容によっては直接学校へ出向き詳しく状況を話すこともあります。

また、仕事では接客が主な業務なのでセルフレジに立つことが多く（出口付近にいるお客様をサポートするための担当者）家族と一緒に買い物をする様子を日

頃から観察しています。その際に「この子こんなに笑う子だったんだ」、「いつもお父さんが保育園のお迎えするんだな」、「お母さん今日も機嫌が悪そうだな。小さい子3人は大変か」というように生活の一部が垣間見ることがあります。それらの情報はとりあえず心にとどめ、必要な場合に引き出すことができればと心がけています。実際にいつもスーパーに来ていた子どもが関わる事案について、日頃観察してわかっていたその子の様子を市の担当課に説明したこともありました。

あのとき万引きをしてぼろぼろ涙を流していた子、いじめに発展する前にとめることができた子。今、笑ってお買い物をする彼らを見ると嬉しくなります。ささやかながら、これが私の主任児童委員活動の一端です。



3 これからの課題

こうした日頃の活動のほかに、主任児童委員が普段から学校との緊密な関係をつくっていくことが非常に大事なことだと思っております。他の市町村の委員の方々と意見交換すると、主任児童委員を中心に民生委員が頻繁に学校訪問を行い、学校との良好な関係を築き、普段の活動に生かしているという話をよくお聞きます。

神栖市では今まで主任児童委員や民生委員による定期的な学校訪問が行われておらず、今までやっていなかったことを新しく行うためには私では荷が重いと、以前から思っていました。

しかし、神栖市でも学校運営委員会が発足したことにより、学校側でも地域とのつながりを新たに構築していく上で、主任児童委員との連携を求めるようになりました。こうした機会を活かし、定期的な学校訪問などを提案し、どのように取り組みを進めるか、関係者で話し合ってまいりたいと思います。

